

## 2017 年度 小委員会活動成果報告

(2018 年 1 月 31 日作成)

小委員会名	建築物の減衰機構とその性能評価小委員会		主 査 名：中村尚弘 就任年月：2017 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (荷重運営委員会)		委員長名：塩原 等 主 査 名：高橋 徹
設 置 期 間	2017 年 4 月 ～ 2021 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築物の減衰機構は、建築物の応答に影響を及ぼすものの、その物理的性質や特性は未だ明確にされていない。2000 年に「建築物の減衰」を刊行して後、減衰に関する多数のデータが得られ、新たな知見も蓄積された。これらに基づき、前書を引き継ぐ書籍を出版し、成果の海外展開のため国際会議を開催する。</p> <p>初年度：2016 年度までの小委員会での成果をとりまとめる。この成果をシンポジウムで発表して広く意見を求め、その内容も反映して書籍の執筆を行う。</p> <p>2 年度：書籍原稿を作成し査読対応を行う。また国際会議の計画を行う。</p> <p>3 年度：書籍を出版し、講習会を行うとともに、国際会議の準備を行う。</p> <p>4 年度：国際会議を開催する。</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無：無		
	<p>主査：中村尚弘(広島大学)</p> <p>幹事：佐武直紀(イー・アール・エス)、平田裕一(三井住友建設)、吉田昭仁(東京工芸大学)</p> <p>委員：荒川利治(明治大学)、伊藤真二(大和ハウス)、犬伏徹志(神奈川大学)、岩田範生(近畿大学)、扇谷匠巳(長谷工コーポレーション)、鹿嶋俊英(建築研究所)、梶原浩一(防災科学技術研究所)、神田亮(日本大学)、新宮清志(日本大学)、曾田五月也(早稲田大学)、宮本泰志(構造計画研究所)</p>		
設置 WG (WG 名：目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種建築物の減衰データベース作成 WG：各種建築物を対象に、種別ごとのデータベースおよび分析結果の取りまとめを行う。</li> <li>・地震時振動特性検討 WG：実建物における地震観測記録を分析し、振動性状の特性と、地盤と建物の動的相互作用の影響を評価する。これらにより、固有周期と減衰に関する知見を整理し、新たな評価法を提案する。</li> <li>・設計適用検討 WG：各種の構造物に対して環境振動、風振動、地震動に対する設計の考え方と現状分析を行い、提案する減衰評価法の適用性を評価する。</li> </ul>		
2017 年度予算	130,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	8 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) * 能力開発支援事業委員会 承認企画	1. シンポジウム「建築物の減衰と振動 ―今どこまで解っているか、何が問題か」 『同名資料』 <span style="float: right;">参加者数 162 名</span>
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. シンポジウムを実施し、新書籍の現状を紹介して参加者の意見を求めた。 2. 新書籍の原稿執筆を進めた。
委員会活動の問題点 ・課題	1. 新書籍の原稿作成において、前著以降の知見を収集して最新の知見を整理するとともに、現行の耐震設計で用いられている地震応答解析法の妥当性を検討し、必要であればより適切な方法を提案する。